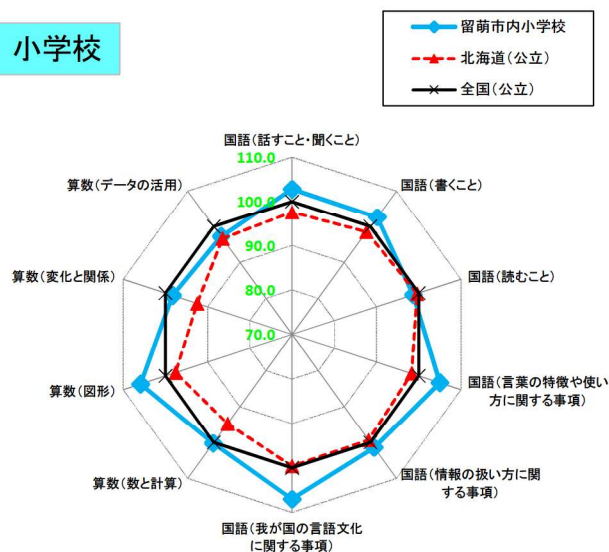


■留萌市内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:84人）（中学校数:2校、生徒数:92人）

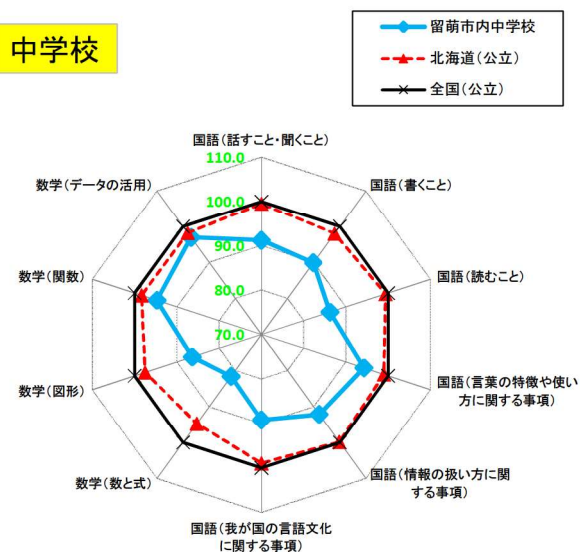
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

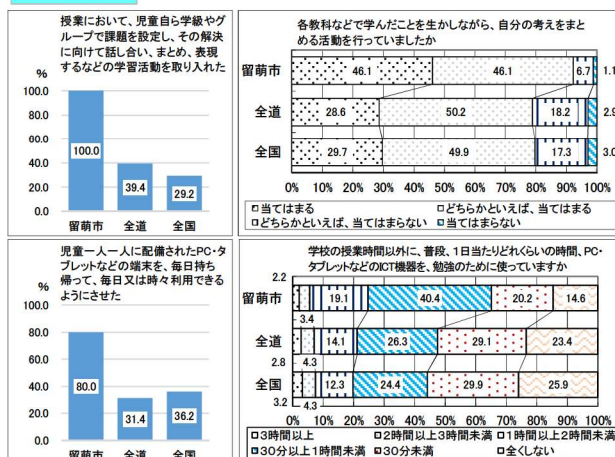


中学校

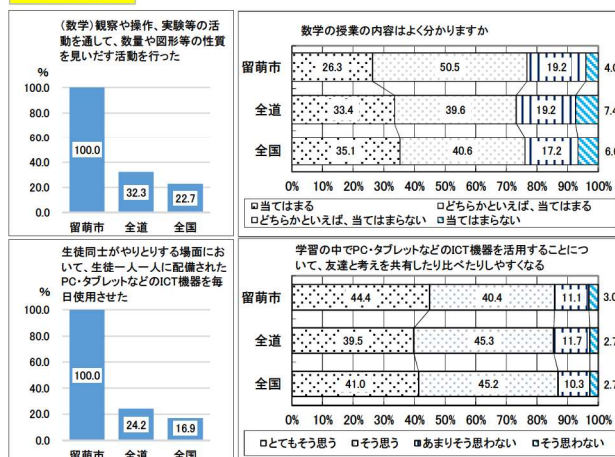


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れるなど、授業改善に係る取組を推進したことにより、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域3事項、算数の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、毎日持ち帰って、毎日又は時々利用できるようにさせたことにより、学校の授業時間以外に、普段、1日当たり、1時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使ったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かったと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

生徒同士がやりとりする場面において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を毎日使用させたことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【留萌市の学力向上策】

- ◎ 小学校間での交流授業や中学校教諭による小学校への乗り入れ指導の実施
- ◎ 加配教員を積極的に活用した学びの質を一層高める授業改善と探求型学習の推進
- ◎ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けたAIドリルを活用した家庭学習の推進

【Webページ】



（R7.1掲載予定）

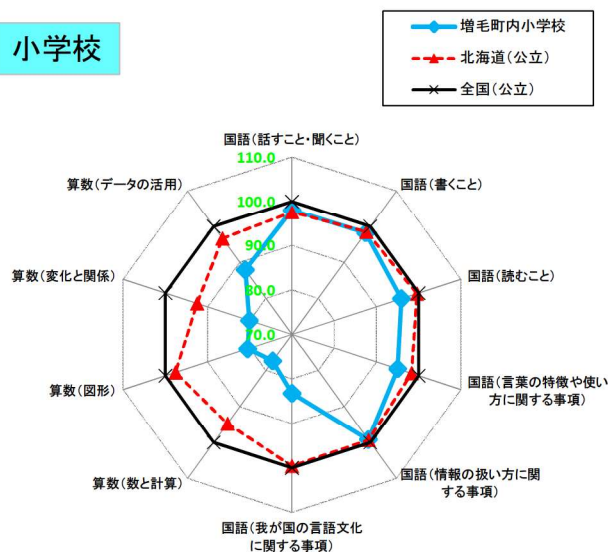
■増毛町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:29人）（中学校数:1校、生徒数:19人）

【教科全体の状況】

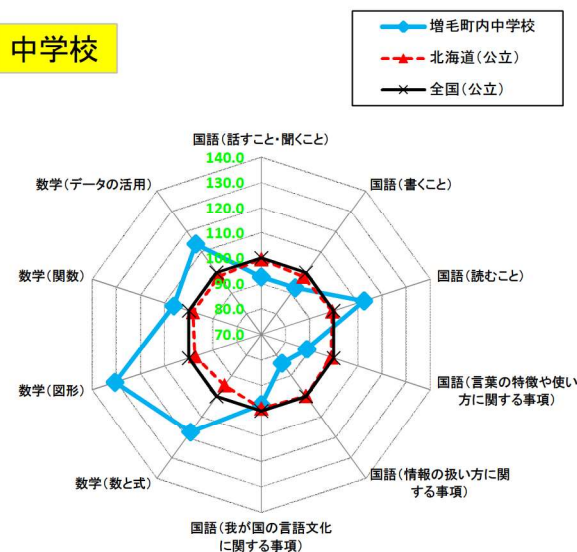
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	55
算数・数学	51	61

小学校

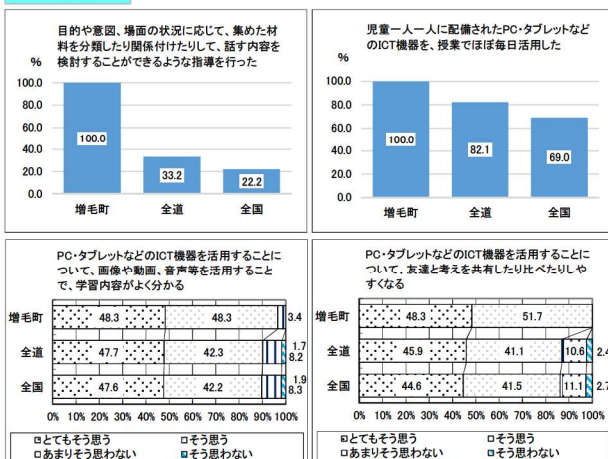


中学校

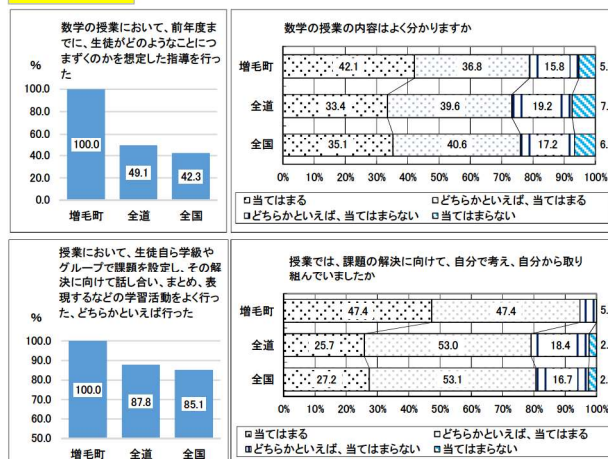


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

学校において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、ICT機器を活用することについて、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の全領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学校において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【増毛町の学力向上策】

- ◎ 各種調査結果に基づいた検証改善サイクルの確立及び学習面の課題解決に向けた授業改善の推進
- ◎ ICTを効果的に活用した、学習への興味・関心の向上に係る取組の推進
- ◎ 小中連携による義務教育9年間を見通した教育指導の充実

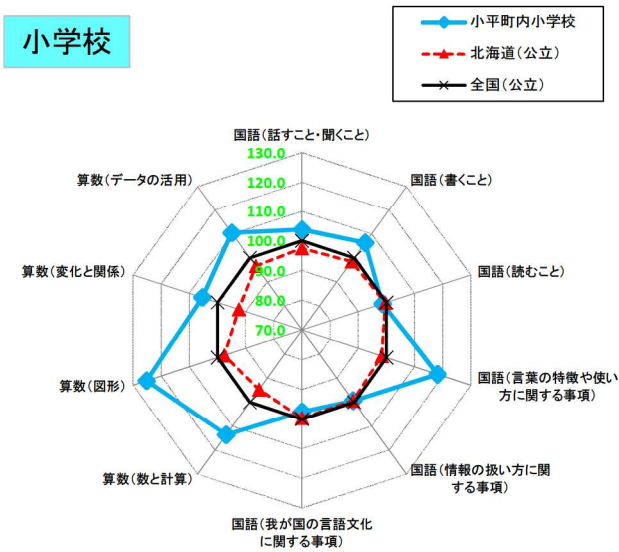
■小平町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:22人）（中学校数:1校、生徒数:13人）

【教科全体の状況】

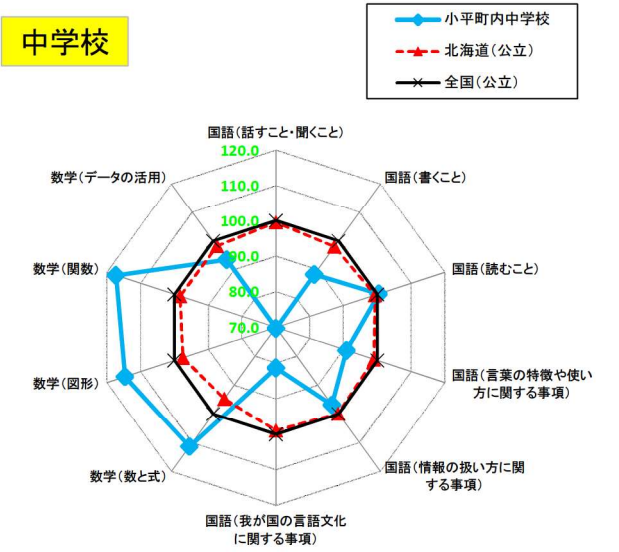
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	72	51
算数・数学	72	57

小学校

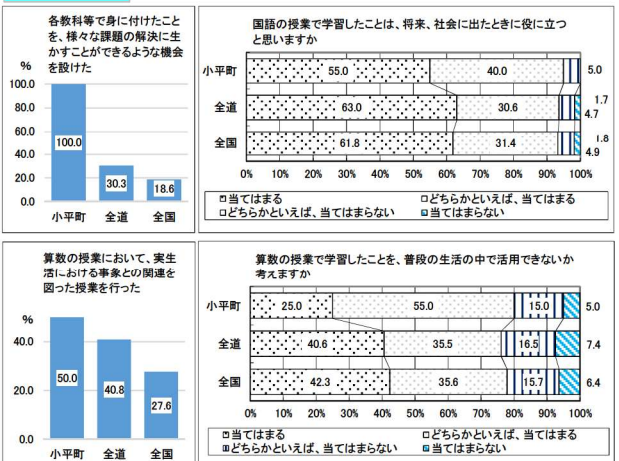


中学校

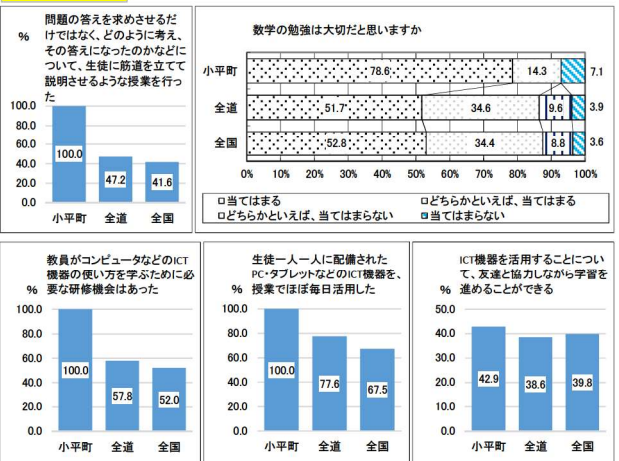


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学校において、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと肯定的に回答した児童の割合が全校及び全道を上回ったとともに、国語の2領域1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の全領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、数学の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学校において、教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会を設定し、ICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、ICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【小平町の学力向上策】

- ◎ 発達の段階に応じた児童生徒の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ◎ ALTを有効活用し、英語の習得のみならず他国の文化や考え方を理解する取組の充実
- ◎ 情報モラルを含めた情報活用能力の向上やプログラミング的思考の育成を図る取組の推進

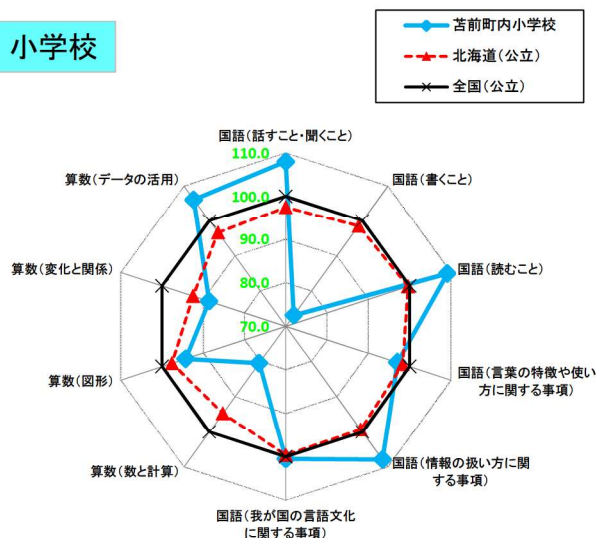
■ 苫前町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：16人）（中学校数：1校、生徒数：13人）

【教科全体の状況】

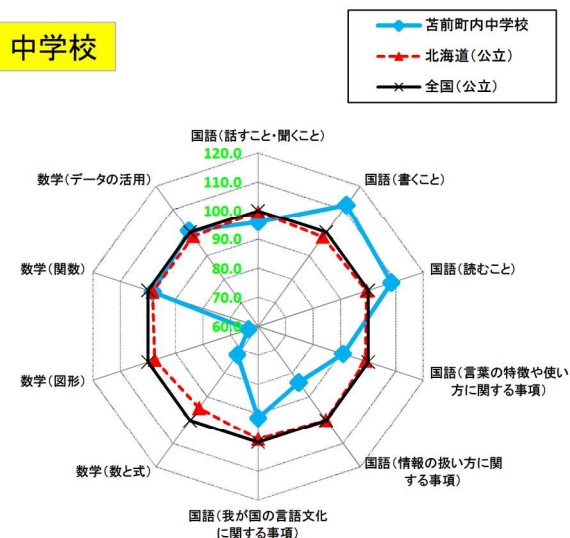
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	67
算数・数学	56	45

小学校

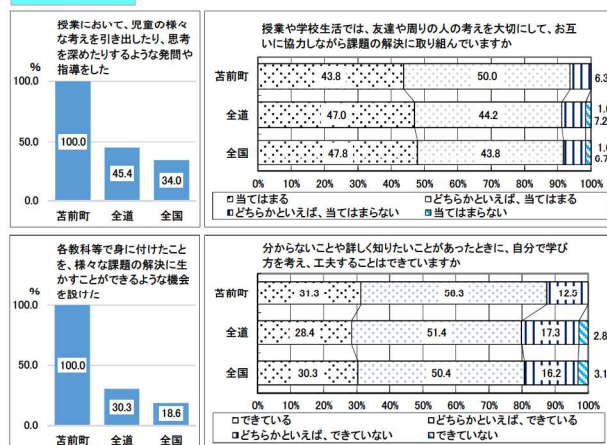


中学校

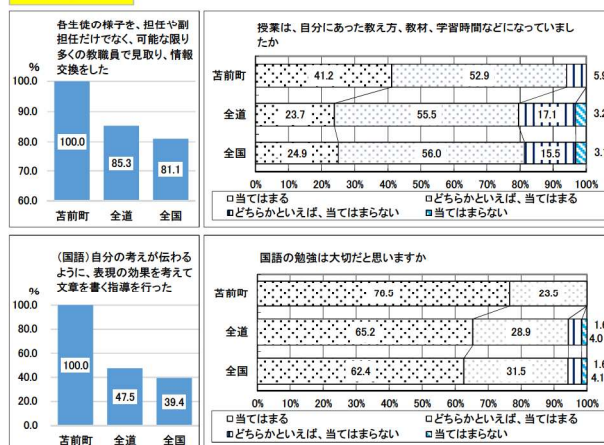


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域2事項、算数の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 学校において、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
学校において、各生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしたことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考え文章を書く指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【苫前町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査結果の系統的な分析・検証による授業改善の推進
- ◎ 小学校における専科指導や複数体制による指導など、個に応じたきめ細かな指導の充実
- ◎ 1人1台端末の活用による教科横断的な視点からの情報活用能力の育成を図る取組の推進

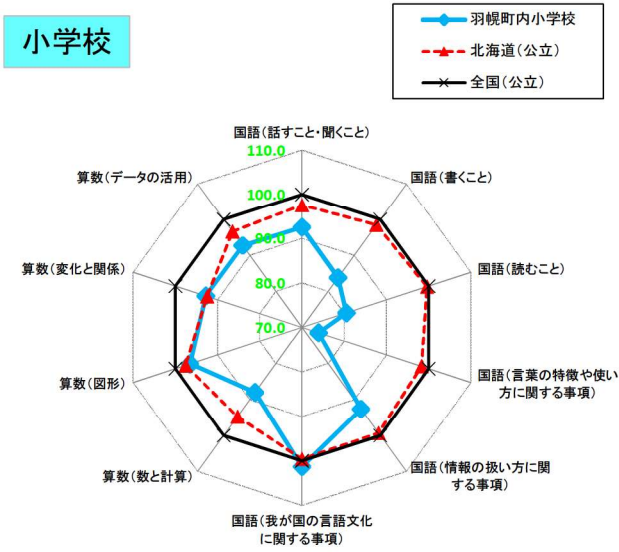
■羽幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:41人）（中学校数:3校、生徒数:38人）

【教科全体の状況】

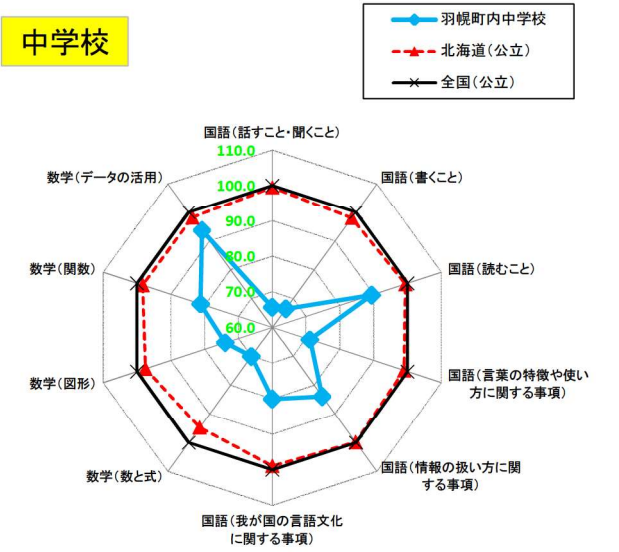
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	57	44
算数・数学	59	42

小学校

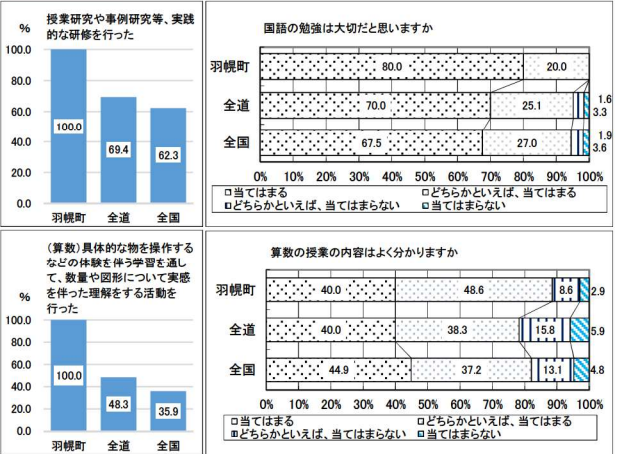


中学校

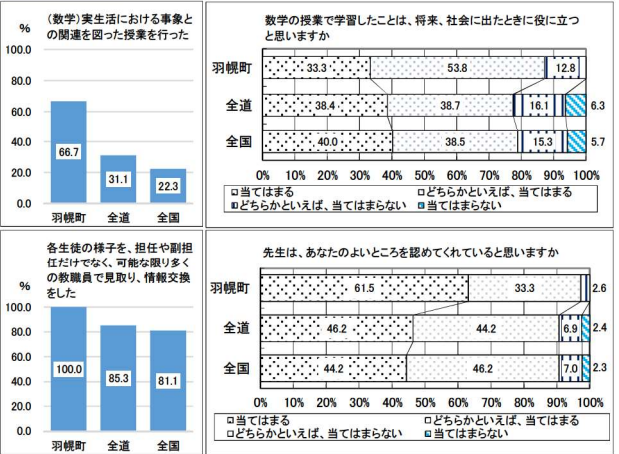


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各学校において、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行うなど、授業改善に係る取組を推進したことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の「図形」の領域で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

中学校

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

学校において、各生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換するなど、生徒の発達の段階や能力・適性等に応じたきめ細やかな対応と指導体制を充実させたことにより、先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【羽幌町の学力向上策】

- ◎ 児童生徒の発達の段階や能力・適性等に応じたきめ細やかな対応と指導体制の充実
- ◎ ICTの活用により、児童生徒の資質や能力が一層育成される教育活動の推進
- ◎ 教育課題への適切な対応を図るための教職員を対象とした研修の機会の充実

【Webページ】



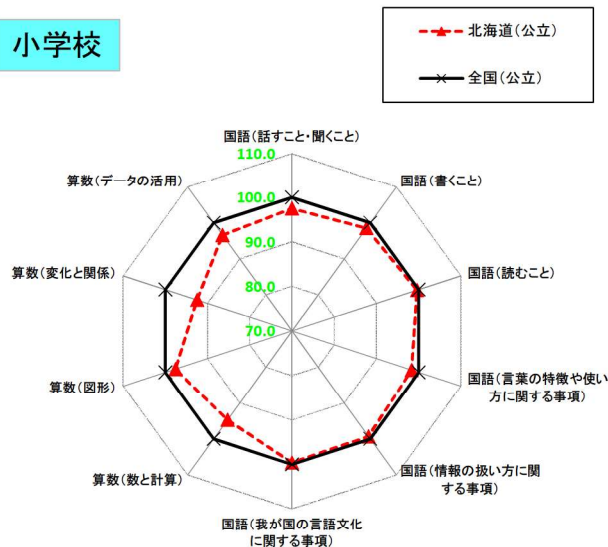
■ 初山別村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:7人）（中学校数:1校、生徒数:5人）

※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、小・中学校の教科調査のデータは掲載していない。

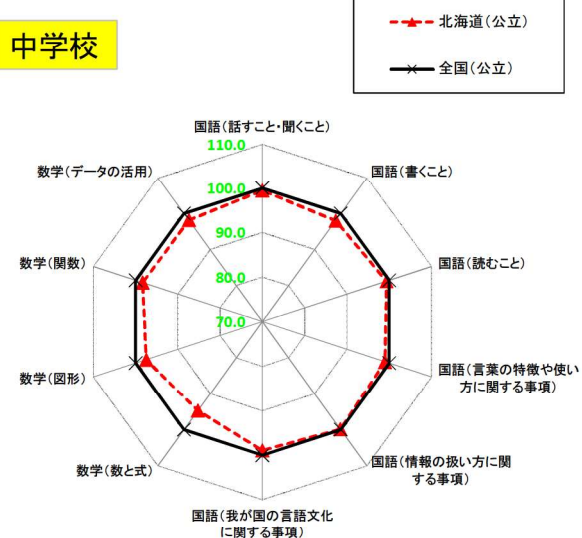
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

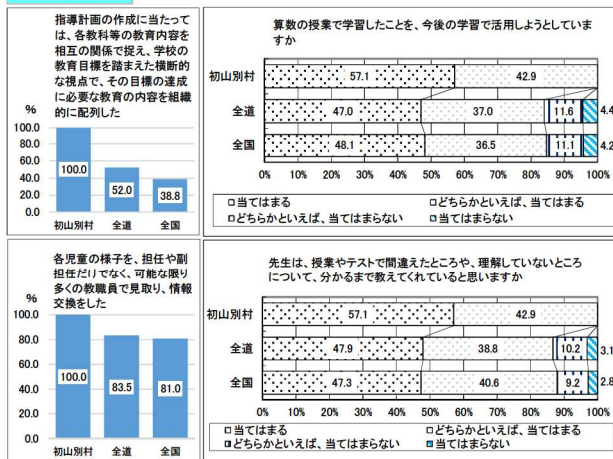


中学校

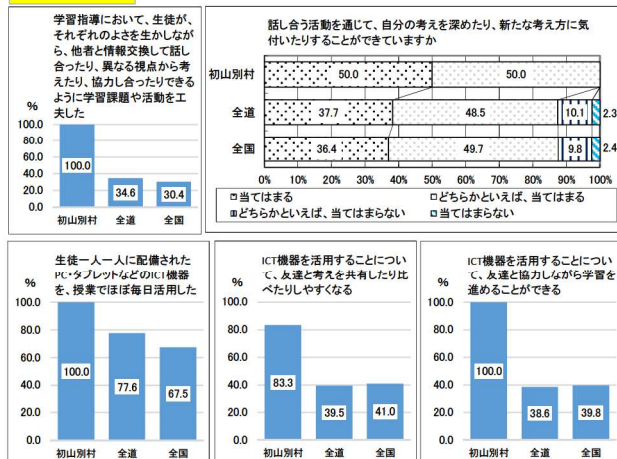


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
学校において、指導計画の作成に当たり、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列したことにより、算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 学校において、各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしたことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 学校において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、ICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなるや友達と協力しながら学習を進めることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【初山別村の学力向上策】

- ◎ 「初山別村学力向上連携協議会」における各種調査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立
- ◎ ICTを活用した授業改善など実践力の向上による児童生徒の教育環境の充実
- ◎ 「初山別村スクエアプロジェクト」を基本とした9年間の学びの連続性を意識した教育活動の推進

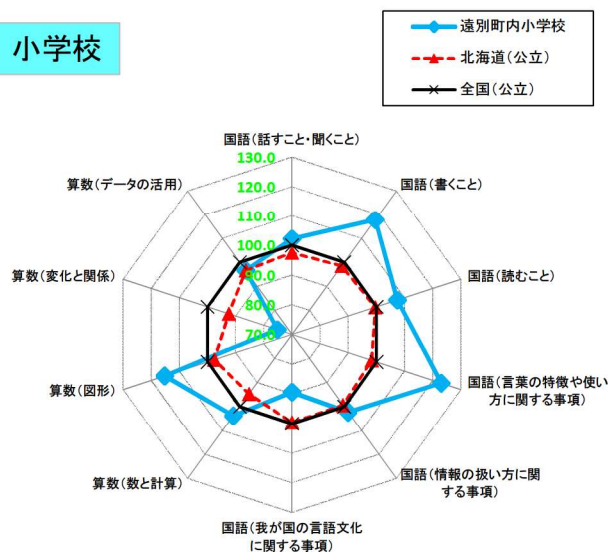
■遠別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:18人）（中学校数:1校、生徒数:18人）

【教科全体の状況】

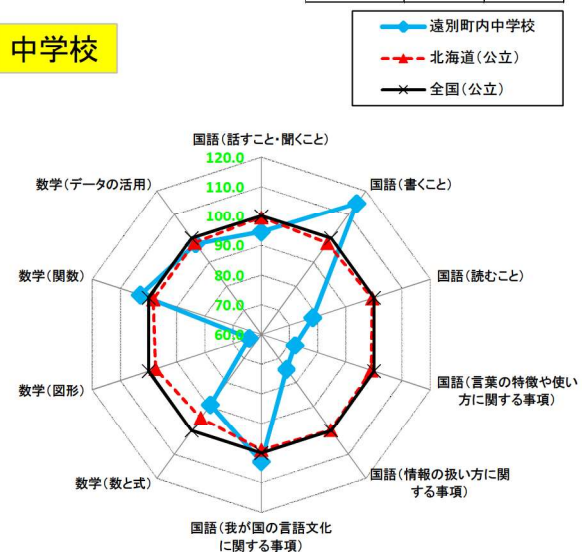
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	75	51
算数・数学	64	48

小学校

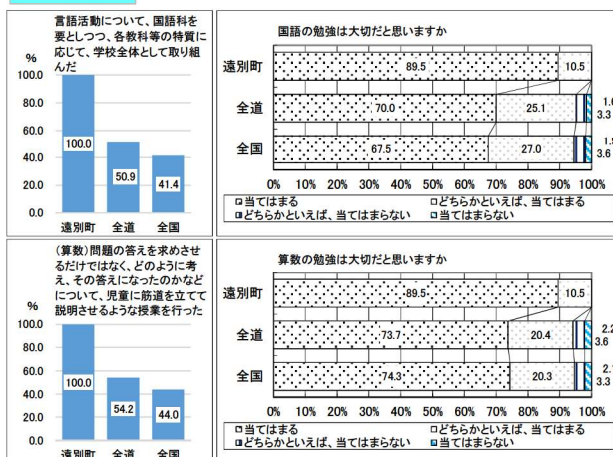


中学校

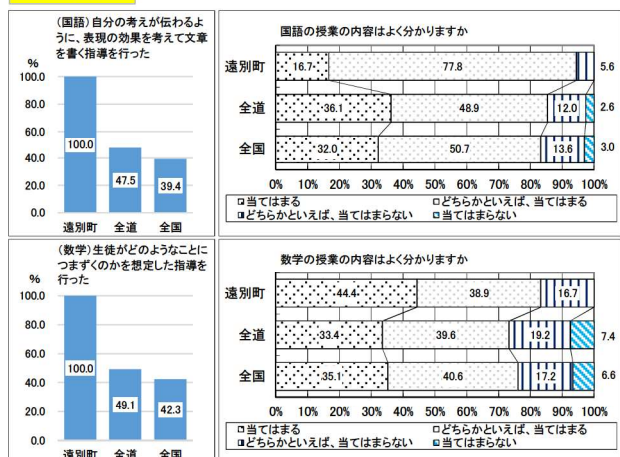


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要として、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考え文章を書く指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、複数の教員によるチーム・ティーチングなど、個に応じたきめ細かな学習指導や生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【遠別町の学力向上策】

- ◎ 複数の教員によるチーム・ティーチングなど、個に応じたきめ細やかな学習指導の充実
- ◎ 異校種交流や地域の外部講師による授業など、地域の教育資源を有効に活用した学習支援の充実
- ◎ 1人1台端末の活用による児童生徒が楽しみながら効率的な学習を進めることができる学習環境の構築

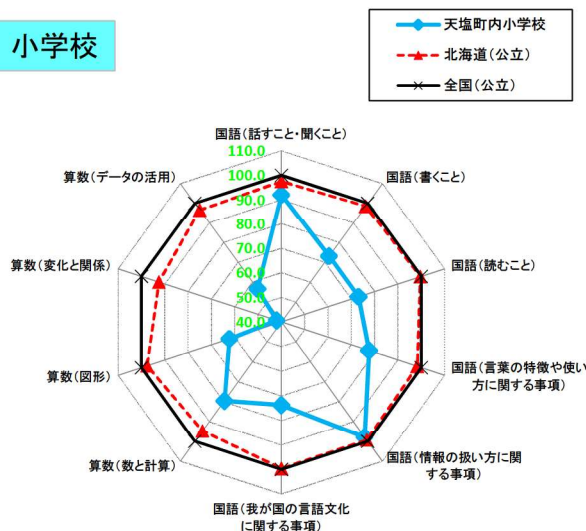
■天塩町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:14人）

【教科全体の状況】

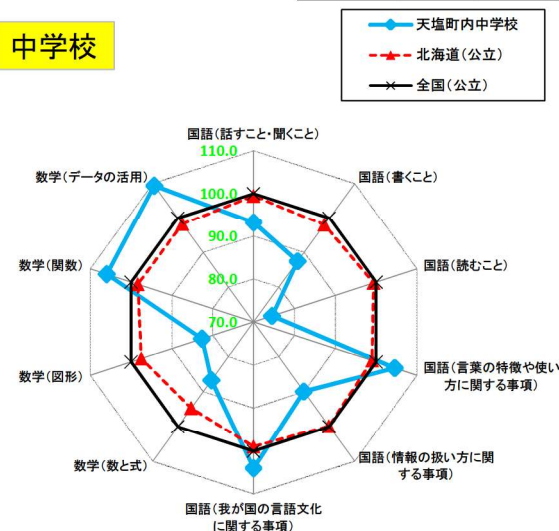
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	54	53
算数・数学	41	51

小学校

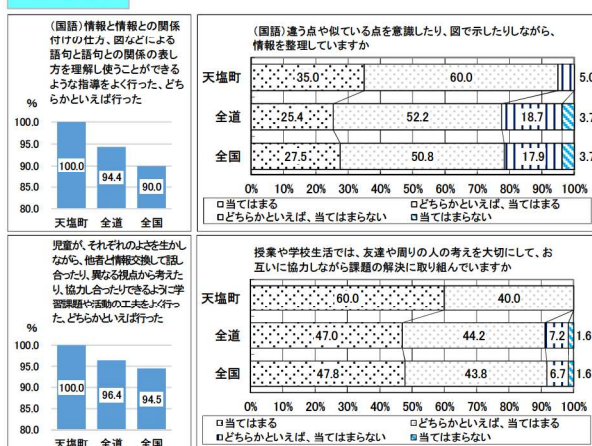


中学校

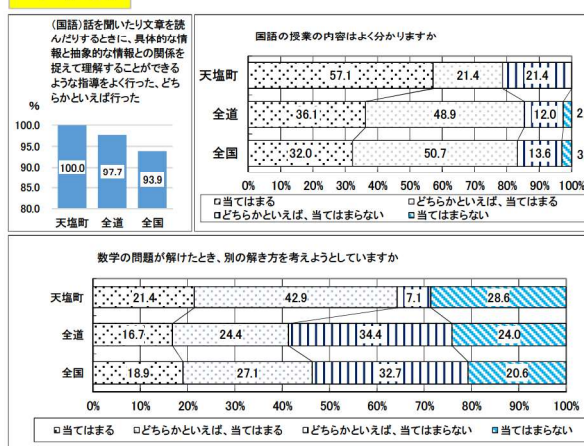


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行ったことにより、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していることと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「情報の扱い方にに関する事項」で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。 学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいることと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学の授業において、問題の解答のみならず、解答に至るまでの過程に着目し、異なる視点から考えたり、周りや話し合ったりする活動を位置付けるなどの指導を行ったことにより、数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとする回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【天塩町の学力向上策】

- ◎ われが明確で達成された授業、子どもが主体的に取り組む授業の実施
- ◎ 各種調査の分析に基づく方策の策定及びPDCAサイクルによる授業改善に向けた組織的な取組の推進
- ◎ 長期休業期間における「学習サポート事業」及び中学校における放課後学習の実施